

2 研究の実際

(1) 持続可能な社会づくりのための学習指導

ア 学習指導要領における持続可能な社会の構築の視点

家庭科、技術・家庭科については、「持続可能な社会の構築の観点から、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立とともに、エネルギー資源や森林資源の有効利用など、社会で活用される様々な技術を評価・管理できる力の育成を目指した教育の充実」が課題の一つとして示され、現行の学習指導要領に持続可能な社会の構築の視点が盛り込まれました。

また、平成28年12月に、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」が示されました。その中で、家庭科、技術・家庭科家庭分野では、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理されました。特に消費生活と環境の内容については、4つの視点のうち持続可能な社会の構築の視点を重視しており、これまで以上に、持続可能な社会の構築の視点から授業の展開を考えていく必要があると言えます。持続可能な社会の構築の視点から、家族・家庭生活、衣食住の生活と関連を図ることが大切です。図1は、平成28年8月に「家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(報告)」で示された「家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における生活の営みに係る見方・考え方」⁽¹⁾の図です。各内容において主として捉える視点については、大きい丸で示されています。

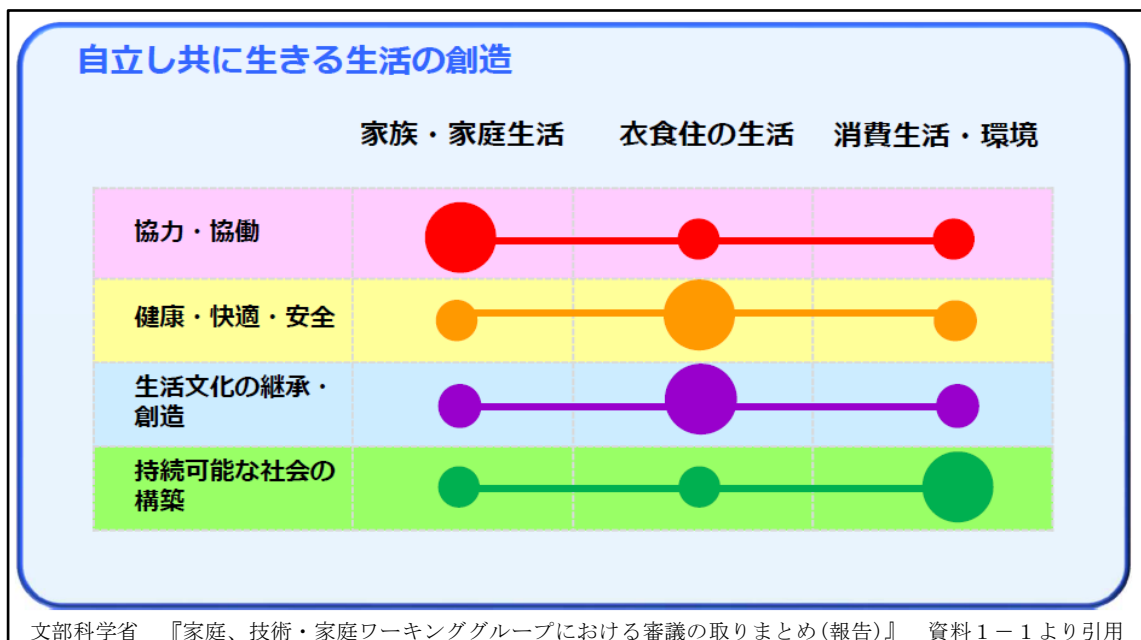


図1 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における生活の営みに係る見方・考え方

現行の学習指導要領と「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」によって示された次期学習指導要領の方向性について、目標と持続可能な社会の構築に関する記述を図2にまとめています。

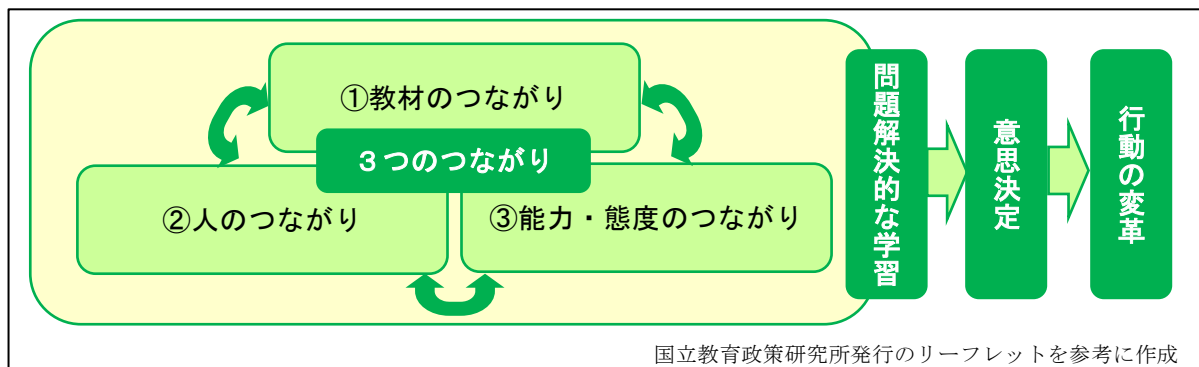


↑ 図をクリックすれば拡大した図2が開きます。

イ ESDの視点に立った学習

ワーキンググループによって示された審議の取りまとめの中では、他教科等との連携について、持続可能な開発のための教育(ESD)等の教科横断的に取り上げられる教育に関して、関係する教科との連携の在り方について検討する必要があるとも示されました。

国立教育政策研究所は、「持続可能な開発のための教育(ESD)」の目標を「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それを解決するために必要な能力や態度を身に付けること」としており、ESDの視点に立った学習を、持続可能な社会づくりに関する問題解決学習と捉えています。ESDの視点に立った学習を進める上では、①教材を内容的・空間的・時間的につなげること、また、②学習者同士、学習者その他の立場・世代の人々、学習者と地域、社会などをつなげること、さらに、③身に付けた能力・態度を具体的な行動に移し、実践につなげることが大切であるとされています。そして、具体的な課題の発見・探求・解決の過程で、児童生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるよう配慮するとされています(図3)。これは、自己と家庭、社会のつながりという空間軸と、生涯の見通しをもつという時間軸の視点を踏まえて、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成するという家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の目標そのものであり、これまで家庭科教育が重視してきた問題解決的な学習に一致するものです。



国立教育政策研究所発行のリーフレットを参考に作成

図3 持続可能な社会づくりに関する問題解決的な学習

また、ESDの学習内容や重視する能力・態度は、家庭科の学習内容や育てたい資質・能力と重なる点が多く、家庭科教育の中でも持続可能な社会の構築の視点が重視されていることから、ESDの視点で家庭科の学習を見直すことも必要であるといえます。次頁表1は、国立教育政策研究所が示しているESDの構成概念とESDで重視する資質・能力について、本研究でどのように解釈するかをまとめたものです。

表1 ESDの構成概念とESDで重視する資質・能力についての本研究での解釈

学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告書〕	本研究での解釈
① 批判的に考える力	他者の意見や情報をよく検討・理解して、思考・判断する。
② 未来像を予想して計画を立てる力	生活の課題を解決するために、見通しをもって計画を立てる。
③ 多面的、総合的に考える力	ひとつの物事に対して、複数の見方や捉え方をする。
④ コミュニケーションを行う力	自分の考えを相手に伝え、他者の考えも尊重する。
⑤ 他者と協力する態度	他者の立場に立って考え、協力して物事を進めようとする。
⑥ つながりを尊重する態度	自分の生活が様々な物事とつながっていることを理解する。
⑦ 進んで参加する態度	生活の課題を解決するために自分にできることに主体的に取り組む。

学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告書〕	本研究での解釈	
I 多様性	いろいろある	世界では、様々なことが起きている。
II 相互性	関わり合っている	自然・文化・社会・経済は、互いに関わり合っている。
III 有限性	限りがある	資源やエネルギーには限りがある。
IV 公平性	一人一人大切に	地域・世代を渡って、公正・公平・平等である。
V 連携性	力を合わせて	持続可能な社会は、連携・協力し合うことで構築される。
VI 責任性	責任をもって	持続可能な社会は、責任ある行動をとることで構築される。

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告書〕」(国立教育政策研究所)を基に作成

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告書〕」の詳細は次のWebアドレスより御覧いただけます。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf

ウ 本研究における持続可能な社会づくりのための学習指導

ア、イで述べたように、持続可能な社会の構築の視点は今後ますます重視されることから、本研究でも持続可能な社会の構築の視点から授業を見直すことにしました。特に、持続可能な社会と関係が深い「消費生活と環境」に関する学習について、題材や教材を見直すと同時に、他教科とのつながりを意識した授業展開を考えました。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(報告)』 平成28年8月 資料1-1